

# 令和8年度 小豆島オリーブ検定('26ビギナー検定 東京会場) 正解表

| 設問  | 正解 | テキスト<br>記載p            | 解 説                                                                                                                        |
|-----|----|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 3  | p.68                   | オリーブ栽培の起源には諸説あるが、約6,000年前に小アジア地方で始まったというのが現在の定説である。                                                                        |
| 問2  | 4  |                        |                                                                                                                            |
| 問3  | 3  | p.8                    | 日本に初めてオリーブオイルが持ち込まれたのは、約400年前の安土・桃山時代で、当時キリスト教伝道のため来日したフランシスコ派のポルトガル人神父が携えてきたといわれている。                                      |
| 問4  | 1  | p.9                    | 文久2年(1862年)及び慶応3年(1867年)に医師、林洞海の献策によって医薬品用オイル生産を目的にフランスから苗木が輸入された。                                                         |
| 問5  | 2  | p.11～<br>p.12          | 明治37年から38年(1904年から1905年)の日露戦争により、北方海域に広大な漁場を獲得し、膨大な量の魚介類の水揚げが可能となった。その魚介類の保存、輸送の手段として油漬けの方法が採られ、これに使用するオリーブオイルの国内自給が求められた。 |
| 問6  | 1  |                        |                                                                                                                            |
| 問7  | 2  | p.11                   | 神戸オリーブ園で、福羽逸人による管理が好成績を収め、明治15年(1882年)に果実が収穫され、日本で初めてオリーブオイルの採取及びテーブルオリーブの加工が行われた。                                         |
| 問8  | 4  | p.12                   | 明治40年(1907年)に農商務省が、三重・香川・鹿児島県の3県を指定し、翌年それぞれ1.2haの規模で試験栽培を開始した。                                                             |
| 問9  | 2  | p.75～<br>p.76          | 明治40年(1907年)に、アメリカのカリフォルニア州からネバディロ・ブランコとミッションの2品種が導入された。                                                                   |
| 問10 | 4  | p.14～<br>p.15          | 野呂癸巳次郎は、大正11年(1922年)から農事試験場に在籍し、グリーンオリーブの塩蔵の品質向上に努めた。                                                                      |
| 問11 | 2  | p.13・<br>p.26          | 明治41年(1908年)の4月22日、1.2haの規模でオリーブ(519本)の試験栽培が開始され、その2年後に開花・結実した。                                                            |
| 問12 | 2  | p.17～<br>p.18          | 昭和34年(1959年)に始まった、オリーブ製品の輸入自由化により、諸外国の安価なオリーブオイルやテーブルオリーブが大量に輸入されるようになり、国内のオリーブ価格は低迷した。                                    |
| 問13 | 3  | p.19・<br>p.64～<br>p.65 | 昭和40年代以降小豆島で生産の主流となったオリーブの「新漬け」が未発酵タイプの漬物であり、海外からの輸入が困難であることから高値での販売を維持できたため、小豆島のオリーブ生産は生きのびることが出来た。                       |
| 問14 | 1  | p.33                   | 昭和39年(1964年)には106haまで拡大したが、昭和34年(1959年)の輸入自由化により状況が一変し、昭和61年(1986年)には33haまで減少した。                                           |
| 問15 | 4  | p.30～<br>p.31          | 香川県農業試験場小豆オリーブ研究所では、オリーブの栽培技術の確立、優良品種の選定や品種の保存などを行っている。平成28年(2016年)度より公的機関では初めてオリーブオイルの官能評価業務も行っている。                       |
| 問16 | 2  | p.40                   | オリーブの樹齢は極めて長く、地中海沿岸では数千年を超える老樹も現存している。                                                                                     |
| 問17 | 4  | p.40                   | オリーブ樹は、モクセイ科、オリーブ属に属する常緑樹である。                                                                                              |

令和8年度 小豆島オリーブ検定('26ビギナー検定 東京会場) 正解表

| 設問  | 正解 | テキスト<br>記載p        | 解 説                                                                                                                                                                     |
|-----|----|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問18 | 2  | p.41               | 1つの小花は、直径3mm程度の乳白色をした4片の合弁花冠である。                                                                                                                                        |
| 問19 | 4  | p.41               | 表面は厚い透明のクチクラに覆われて光沢のある濃緑色、裏面は密生した毛茸で銀白色になっている。                                                                                                                          |
| 問20 | 1  | p.42               | 自家不和合性とは、おしべ、めしべが健全でありながら自家受粉では受精できず、結実にくい性質のこと。                                                                                                                        |
| 問21 | 2  | p.73～<br>p.74      | ミッションは、アメリカから導入され、国内のオリーブ栽培のテーブルオリーブ用、オイル用兼用の最主要品種となっている。                                                                                                               |
| 問22 | 4  | p.75～<br>p.76      | ネバディロ・ブランコは、自家不和合性が強く、不完全花が多発するが、花粉が非常に多いため、受粉樹としての価値が高い。                                                                                                               |
| 問23 | 1  | p.75               | ルッカは、1本でも実をつけやすい品種であり、耐寒性・耐病性にも優れ、炭疽病への抵抗性も高い。                                                                                                                          |
| 問24 | 3  | p.44               | 気温については、年平均気温14℃～16℃の温暖地が適当とされているが、比較的低温には強い。                                                                                                                           |
| 問25 | 4  |                    | 日照量が多いほど生育がよく、年間2,000時間以上の日照時間が望ましい。                                                                                                                                    |
| 問26 | 3  |                    | オリーブは乾燥を好む植物とされているが、良好な生育、順調な果実の成長のためには、年間1,000mm程度の適度な降水量（灌水量）が必要となる。                                                                                                  |
| 問27 | 1  | p.45～<br>p.46      | 十分な保水力に富んだ排水しやすい肥沃地では収穫量、品質ともに良好で安定した生産を維持できる。                                                                                                                          |
| 問28 | 3  | p.40～<br>p.41・p.45 | オリーブ樹は常緑樹である。                                                                                                                                                           |
| 問29 | 2  | p.49               | 炭疽病は、糸状菌（カビ）が感染することで発生する病気である。果実で発病すると褐色に腐敗し、湿潤な環境下では病斑上にサーモンピンク色の胞子を大量に形成する。                                                                                           |
| 問30 | 3  | p.47～<br>p.48      | ①栽培開始時からわずか2年後にはその存在が確認されている<br>②存在が確認された当時は象鼻虫（ゾウビチュウ）と呼んでおり、オリーブアナアキゾウムシという名称で呼ばれるようになったのは昭和24年（1949年）からである<br>④小豆島では、成虫は3月下旬から10月下旬まで絶え間なく活動を続け、冬期は樹下の落葉下などで休眠状態で過ごす |
| 問31 | 4  | p.48               | オリーブアナアキゾウムシの防除に際しての薬剤散布の1例として、スミチオン乳剤の50倍液を使用する。                                                                                                                       |
| 問32 | 4  | p.49               | 炭疽病の予防策の基本は、圃地内の日当たり・風通りを良好にすることであり、密植を避け適度な剪定を行うとともに、水はけの悪い圃地では排水路を確保することが大切である。                                                                                       |

# 令和8年度 小豆島オリーブ検定('26ビギナー検定 東京会場) 正解表

| 設問  | 正解 | テキスト<br>記載p                     | 解 説                                                                                                                                                                                             |
|-----|----|---------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問33 | 2  | p.70                            | オリーブの品種数にはいろいろな説があるが、国連食糧農業機関（FAO）の調査では1,275種が確認された。                                                                                                                                            |
| 問34 | 1  | p.42～<br>p.43                   | 幼果は緑色であるが、成熟期に入ると果皮は緑黄色、赤紫色を帯びてきて、完熟すると黒紫色へと変わっていく。                                                                                                                                             |
| 問35 | 2  | p.72～<br>p.73                   | カラマタはギリシャの代表的な品種である。                                                                                                                                                                            |
| 問36 | 3  | p.70～<br>p.72                   | コロネイキはギリシャ、ピクアル・アルベキナはスペイン、フラントイオはイタリアの代表的な品種である。                                                                                                                                               |
| 問37 | 3  | p.38                            | 平成17年（2005年）に（株）ヤマヒサが国産オイルとして国内初入賞した。                                                                                                                                                           |
| 問38 | 4  | p.59～<br>p.60                   | マットなどの資材を使わないので、オイルが汚染される危険性が低い。                                                                                                                                                                |
| 問39 | 1  | p.52                            | 果実赤道面での横径14mm以上で傷がなく、赤紫系の着色がなく、品種固有の形をしている果実が対象となる。                                                                                                                                             |
| 問40 | 3  | p.84～<br>p.85                   | 化学検査では品質・純度・汚染物質を、官能評価では品質を分析する。                                                                                                                                                                |
| 問41 | 1  | p.86・<br>p.89                   | 平成26年（2014年）にIOC基準に準じた香川県独自のオリーブオイルの品質評価基準を策定、「かがわオリーブオイル品質評価・適合表示制度」を創設し、品質の高さと香川県産（または小豆島産）であることの表示を行っている。国際的にエキストラバージンオリーブオイルと認められる「スタンダード」（酸度0.80%以下）と、さらに高品質な「プレミアム」（酸度0.30%以下）の2種類の基準がある。 |
| 問42 | 2  |                                 |                                                                                                                                                                                                 |
| 問43 | 3  | p.84・<br>p.87・<br>p.90～<br>p.91 | 精製オリーブオイルとバージン・オリーブオイルをブレンドしたオイルは、オリーブオイル（狭義）となる。                                                                                                                                               |
| 問44 | 1  | p.87                            | エキストラ・バージン・オリーブオイルは遊離酸度がオレイン酸換算で100g中0.80g以下で、官能評価では欠陥の中央値が0.0でフルーティーの中央値が0.0を超えるものである。                                                                                                         |
| 問45 | 4  |                                 | 『ファイン・バージン・オリーブオイル』は、現在の基準には含まれていない。平成6年（1994年）11月に現在の基準の『バージン・オリーブオイル（狭義）』に改称された。                                                                                                              |
| 問46 | 3  | p.90～<br>p.91・<br>p.95          | オリーブオイルに含まれる脂肪酸のうち、オレイン酸は約55～83%を占める。オレイン酸は、代表的な一価不飽和脂肪酸である。                                                                                                                                    |
| 問47 | 4  | p.91～<br>p.93                   | カルシウムの吸収を助け、骨のミネラル化を促進することで骨粗しょう症の予防にもなる。                                                                                                                                                       |
| 問48 | 1  | p.20～<br>p.21・<br>p.26          | 県花は昭和29年（1954年）、県木は昭和41年（1966年）、島花・島木は昭和60年（1985年）に選定された。                                                                                                                                       |
| 問49 | 2  | p.100                           | 小豆島の美しい風景に魅せられ、小豆島のオリーブを日本に広く知れ渡らせることとなった画家は猪熊弦一郎である。                                                                                                                                           |
| 問50 | 4  | p.26                            | 昭和47年（1972年）「オリーブを守る会」が結成され、3月15日を「オリーブの日」と定めた。                                                                                                                                                 |